



◆「1本の温度計」を読んで

中川根第一小5年 小澤椋馬



「1本の温度計で分かる、自然や人間のくらしの変化。さまざまな例や実験でやさしく解き明かします。」

1本の温度計で何が分かるんだらう。夏休みの自由研究で温度調べをしているぼくは、この言葉にすごく興味を持った。

考えてみると、温度は生活に欠かせない。熱いときも寒いときも今何度くらいあるのか気になるし、それによりエアコンをつけるかどうか判断する。

「むしむししてきたから雨になるよ。」母はこんなことをよく言っている。

人間の生活だけでなく、畑の野菜や山々の自然、昆虫や野生動物の生活にも温度は重要な役割を持っている。この

本は温度のことをもっと身近に感じさせてくれる本だ。

カエルは冬眠の途中で最低地温を目覚ましがりわりにして目を覚まし、産卵のために集まってくる。その予想日は、長年の観察記録でピタリと当たるようになったそうだ。野生の生き物の行動パターンが温度によって決まってくるなんてすごい。ぼくにとってはまったく未知の世界だ。

桜の開花予想も同じらしい。何十年にもわたる過去の気温やつばみの重さなどの記録をもとに計算式やグラフができていて、そのデータに天気予報を加えながら予想される。桜の花も温度を知っていて、いつさくかタイミングをはかっているかのようだ。

『うでから芽が出た!』という実験にぼくは興味しんしんだ。人間のうでに種をまく?なんて奇妙な実験なんだらう。何よりも人間の体温で発芽の条件を満たそうとしたことに驚いた。36度近くに保たれた体温を熱源として発芽させる。ぼくはわくわくしてきた。なんと種をまいてから2日ですべての種から芽が出てきたのだ。読めば読むほど、驚きと感心とで頭の中はいっぱいになってきた。

ばいになってきた。

ぼくは1学期に宿題をやるために2階に上がると、1階の居間はそれほど暑くないのに、2階のぼくの部屋は暑くてたまらないことが多かった。そのことをきっかけに、自由研究で実際にどのくらいの温度差があるか調べてみた。温度を毎日測ることはとても大変だった。めんどうくさくなってやめてしまおうと思ったことが何回もあった。

でもこの本を読んで、毎日続けてこそ結果につながるということがよく分かった。そして何より、身近なところにとくさんの不思議がかくれているということや、その不思議を解くかぎの一つが温度であるということを知ることができた。

ぼくの研究はまだ続いている。1本の温度計で分かる自然や人間のくらしの変化。これからもいろいろなおもしろいこと興味を持って、たくさんの不思議を見つけてみよう。もしかしたら、ぼくにもなにか発見ができるかもしれないぞ。

◆「翼のない天使たち」を読んで

中川根第一小6年 梶山澄怜



わたしが読書感想文をどの本で書こうかなあと思っていると、先生が、「翼のない天使たち、読んでみたら。」と声をかけてくれました。

読んでみたら、老人ホームのことや友達の間係について書かれていました。おじいさん、おばあさんが登場してきたら、わたしのとしばあちゃんを思い出したので、この本で書くことにしました。

わたしには、小学校2年生まで90才のとしばあちゃんがいまいました。としばあちゃんは、わたしが宿題をやっていたら、そばにすわってくれたり、学校から帰ってくると、「すみれ、おかえり。」と必ず声をかけてくれました。

ずっと元気でいてくれると思っていたけど、急に元気がなくなってきたり、急になんか